

一六七三番

風早の 浜の白波 いたづらに ここに寄せ来る
見る人なしに

一六七四番

我が背子が 使ひ来むかと 出立の この松原を
今日か過ぎなむ

一六七五番

藤白の み坂を越ゆと 白たへの 我が衣手は
濡れにけるかも